

「祈り」によって開花する、
秘められた「七つの力」

では、なぜ、筆者は、この「全託の祈り」の技法を、日々の仕事と生活の中で、何度も行うことを勧めるのか。二つの理由を述べておこう。

第一の理由は、「大いなる何かの声」が聞こえてくるからである。

すなわち、「導きたまえ」と祈ることによって、心に静寂が訪れ、日常の何気ない出来事や出会いの中で起こる「不思議な偶然」を感じ取ることができ、そのことを通じて、「大いなる何か」の導きの声が聞こえてくるからである。

実際、筆者は、朝、富士に向かって「祈り」を捧げていると、ときおり、「大いなる何かの声」を感じることがある。しかし、それは、決して「神のお告げ」のような神秘主義的なものではない。

1

例えば、昨日、ある人物から、ある仕事の提案を受けたとする。そして、夜、テレビを観ていると、ある番組で、たまたまその仕事に関連する情報が語られていたとする。

こうしたとき、朝の祈りの中で、ふと、その二つのことが心に浮かび、「ああ、この仕事をやってみよということか…」と感ずることがある。また、逆に、「ああ、この仕事はやめておけということか…」と感ずることもある。

いずれにしても、この「全託の祈り」の中で感ずる「大いなる何かの声」は、それに従って進んだとき、人智を超えた展開をもたらすことが多いのである。そして、「良い運氣」を引き寄せることが多いのである。

第二の理由は、自分の中の「秘められた力」が開花するからである。

こう述べると、あなたは、驚かれるかもしれないが、この「全託の祈り」とは、実は、極めて優れた「能力開発」の技法なのである。

これも、この「全託の祈り」の技法を、日々、実行してみると分かると思うが、筆者の経験では、この技法を、日々、実行することによって、自分の中に眠っていた、次の「七

つの力」が開花していることを感じる。

「生命力」 「集中力」 「直観力」 「創造力」 「逆境力」 「解釈力」 「人間力」

このことの詳しい説明は、本書のテーマを超えているので、近い将来、別の著作で深く論じたいと思うが、まず何よりも、筆者が三八年前に生死の境の大病を患いながら、健康を回復することができたのは、この「祈り」の技法を、一日中、行じ続けることによって、自らの中から「生命力」が湧き上がってきたからである。

また、この「祈り」の技法を、朝晩を含め、一日の中で何度も続けることで、物事に対する精神の「集中力」が高まっていく。そして、同時に「直観力」が研ぎ澄まされていく。さらには、新たなアイデアや発想が求められるときに、この「祈り」の技法を行い、「導きたまえ」と祈ると、不思議なほど、そのアイデアや発想が「降りて」くる。これは、先ほども述べたように、すべての叡智が宿る「フィールド」に繋がる感覚でもあるが、そうした意味での「創造力」も高まっていく。

2

2

また、危機や逆境において、この「祈り」の技法を行い、「導きたまえ」と祈ると、これも不思議なほど、心の中がポジティブな想念に満たされ、その危機や逆境に正対して取り組む力が湧いてくる。それは、「逆境力」と呼ぶべきものであるが、その背景には、「解釈力」の深まりがある。

すなわち、それは、その危機や逆境が、なぜ与えられたのか、そこにどのような意味があるのかを、ポジティブに考える力のことであるが、その「解釈力」が深まっていく。

そして、「人間関係の問題」に直面したときや「不運に見える出会い」が与えられたときにも、この「祈り」の技法によって「導きたまえ」と静かに祈るならば、その人間関係や出会いの問題がなぜ与えられたのか、その人間関係や出会いを通じて、何を学べと言われているのかをポジティブに解釈することができ、その結果、その人間関係や出会いに正対して処する力が高まっていく。それは、文字通り「人間力」と呼ばれる力に他ならない。このように、この「全託の祈り」は、極めて優れた「能力開発」の技法でもある。

しかし、筆者は、病気が与えられたときや、危機や逆境が与えられたとき、さらには、人間関係の問題が与えられたときには、この「祈り」の技法を実行するとき、「導きたまえ」という「全託の祈り」とともに、もう一つ、大切な「祈り」を実行している。

それは、どのような祈りか。